

2026年4月例会

静峰ふるさと公園の八重桜

開催日 2026年4月19日(日)
集合場所 水郡線 瓜連駅
集合時間 10時00分
コース 瓜連駅 ~ 常福寺・瓜連城跡 ~ 花の寺弘願寺
~ 静のムクの木(樹齢900年) ~ 静神社(常陸国二宮)
~ 静峰ふるさと公園 八重桜 自由行動・昼食(1時間)
~ 齋藤監物の墓 ~ 古徳沼 ~ 瓜連駅
ゴール時間 14時00分 瓜連駅
距離 13 km 団体歩行(公園内自由歩行)
参加者 17名
天候 晴れ

ウォーキング状況

会場の静峰ふるさと公園では八重桜祭りが開催されており、車を駐車した那珂市総合センターらぽーと及び瓜連駅からバスが運行されており多くの方が乗車していました。

その中、天气に恵まれ、雲と風が欲しい贅沢な中で瓜連駅をスタート。



まずは常福寺を参拝。

南北朝時代に開山され、江戸時代は水戸藩主の菩提寺とし尊崇されたお寺からです。

又、常陸の国での南北朝時代の始まりの戦が行われた瓜連城跡でもあります。

常福寺を後にし、水郡線沿いに一駅歩き、花の寺弘願寺に到着。
先ずは、くすぐり地蔵に参拝。病んでいる体の部位の地蔵の体をくすぐると身代わりになり治癒するといわれているお地蔵さんです。
皆さん、それぞれ「くすぐって」いました。



静峰ふるさと公園への道中では八重桜が満開で迎えてくれます。



樹齢1000年のムクの木を見学後、静神社へ向かいます。



鳥居から155段の階段を登ります。結構しんどいです。
参拝後、地元から参加していた K さんから思わぬ差し入れ。
アイスクリームです！！
みんな、階段を登って来たかいがあったと大喜びです。
有難うございました。

小休憩後、参道を下ると静峰ふるさと公園到着です。
ここで1時間の自由時間、昼食を済ませて公園出口集合です。





公園内は八重桜祭りが開催されていて、催し物、屋台が軒を並べ大賑わいです。
八重桜も少し満開は過ぎていますが綺麗に咲き誇っています。
一時間後出口で恒例の集合写真。



公園を後にして、斎藤監物の墓、白鳥の飛来で有名な古徳沼を經由して瓜連駅に到着です。



斎藤監物の墓

予定より早くゴールして、電車の待ち時間が長くなりスミマセンでした。

以上

記 松崎 寛

次ページに豆知識を記載しました。

一宮、二宮、三宮とは → 神社のあらたかとされた順番

常陸	一宮	鹿島神宮	二宮	静神社	三宮	吉田神社
安房	一宮	安房神社				
上総	一宮	玉前神社	二宮	橘神社	三宮	三之宮神社
下総	一宮	香取神宮				
武蔵	一宮	小野神社	一宮	氷川神社	二宮	二宮神社

齋藤監物の墓の案内板 転記

名は一徳、号は文里、監物は通称である。代々静長官と称した、静神社の神官の家に生まれ、盛沢村(水戸市)の庄屋加倉井砂山の日新塾に学び、神官としての教育は父元親から受けた。

その後、藤田東湖のもとで学問に励み、特に書をよくし、師東湖にそっくりの字を書き代筆をつとめたと伝えられている。剣は神堂無念流。

天保14年(1843年)に水戸東照宮の神官となり、さらに弘道館内鹿島神社の神官も兼ねた。

天保15年(1844年)5月、藩主徳川斉昭が幕府から隠居謹慎の処罰を受けた際には、周辺の神官たちを率いて雪冤運動に奔走した。

安政5年(1858年)大老井伊直弼は日米修好条約に無勅調印、これに抗議した斉昭や吉田松陰ら多くを処罰・処刑した安政の大獄が起こった。憤慨した水戸藩の脱藩浪士17名と薩摩藩士1名らが、安政7年(1860年)3月3日朝 桜田門外に於いて井伊大老を襲撃、この時監物は神官同士の三嶋神社(那珂市本来崎)の海後礎磯之介と鹿島神社(城里町古内)の鯉淵要人らと襲撃に加わった、いわゆるさくらだ桜田門外の変である。

監物は重傷を負いながらも斬奸趣意書老中脇坂安宅多邸に届け、その夕刻には肥後藩細川越中守邸に預けられたが、傷が悪化し3月8日遂に死去した。(39歳)

辞世の句

「きみがため つもるおもひもあまつひに とけていれしき けさのあわゆき」